

*本リリースは1月13日に米国ニューヨークで発表されたリリースの抄訳です。

2015年1月15日

デルタ航空、ニューヨーク・ニュージャージー港湾局およびターミナル運営会社と共に、 ジョン・F・ケネディ国際空港第4ターミナルの最新拡張エリアをオープン

JFK ハブ空港への総額 12 億ドルの投資の一部として 7 万 5, 000 平方フィート、11 の搭乗ゲートを新設

【米国ニューヨーク、2015年1月13日】 – デルタ航空 (NYSE: DAL) は本日、ニューヨーク・ニュージャージー港湾局および JFK 国際空港エアターミナル会社 (略称 JFKIAT) とともに、ジョン・F・ケネディ国際空港第4ターミナル拡張工事の第二フェーズ完了に伴い最新拡張エリアをオープンしました。

1 億 7,500 万ドルを投じた第4ターミナル拡張プロジェクトの第二フェーズでは、コンコース B を 7 万 5, 000 平方フィート再拡張し、11 の搭乗ゲートを追加しました。これは、デルタ航空が複数年にわたり継続しているターミナル拡張への総額 12 億ドルの投資の一部です。

デルタ航空社長、エド・バスティアン (Ed Bastian) は次のように述べています。「JFK 第4ターミナルの再拡張は、デルタ航空のニューヨークの空港への莫大な投資 – 過去 6 年間で 20 億ドル近い投資規模を、改めて示すものです。JFK 空港での運航が拡張されることにより、お客様も従業員も恩恵を受けるでしょう。現代の旅行者が期待する、もしくは期待以上のワールドクラスの空港施設を作るために協力してくれた、ニューヨーク・ニュージャージー港湾局および JFKIAT の皆様に心より感謝しています。」

第4ターミナル再拡張により、デルタ・コネクションの運航によるローカル線の発着の大半を、これまでの第2ターミナルから第4ターミナルに移動します。これにより、JFK での乗り換えがよりスムーズになります。

第4ターミナル拡張プロジェクト第2フェーズの概要は以下のとおりです。

- 7 万 5, 000 平方フィート拡張し、11 の搭乗ゲートを追加
- 搭乗ゲートにボーディング・ブリッジ (搭乗橋) を完備
- 搭乗口からラウンジ「デルタ スカイクラブ」へのスムーズなアクセス
- 第4ターミナルと第2ターミナルをつなぐ小型バスの発着所を、新搭乗ゲート近くに追加
 - 既存の第2ターミナル C60 番ゲート近く、第4ターミナル B18 番ゲート近くに加え、延長されたコンコース B の先端近くに発着所を設置
- 第2ターミナルの混雑が緩和され、同ターミナル発着の全デルタ・コネクション便にて、温度/湿度の調節機能を備えたボーディング・ブリッジ (搭乗橋) を利用
- 第2ターミナルの「デルタ スカイクラブ」をリニューアルし、iPad ステーション、シェフ監修の食事・ドリンク、コーヒーショップ、コンシェルジュサービスを提供
- 2015 年第 2 四半期に第2ターミナルのバス発着所をリニューアルし、エスカレーターとエレベータを設置予定

JFKIAT が 10 年以上にわたり運営している JFK 空港の第4ターミナルの拡張により、同空港を利用する年間 120 万人ものデルタ航空のお客様のエクスペリエンスを改善することができます。第4ターミナルの拡張工事第1フェーズは 2013 年 5 月に完了しており、その際に、国際線用搭乗ゲートを 9 つ新設、7 つ改装、チェックインエリアのリニューアル、ビジネスクラスやマイレージプログラム上級会員用の優先サービス「スカイプライオリティ」専用カウンターの一新、保安検査場の一元化、レストランおよびショッピングエリアの充実、24,000 平方フィートの広さを持つラウンジ「デルタ スカイクラブ」を新設し、デルタ航空初のアウトドア・テラス、「スカイデッキ」をオープン、複数の誘導路による混雑緩和、税関国境警備局使用エリアおよび預け入れ手荷物受け渡しエリア (バゲージクレーム) の設備一新などのサービス拡充をしています。

デルタ航空では、JFKを含めたニューヨークの空港に過去6年で20億ドル近く投資し、最新技術の導入受賞歴のあるシェフの起用など顧客サービスの充実に努めています。

ニューヨークにおけるデルタ航空

デルタ航空はニューヨークで最大かつ最も急速に成長している航空会社であり、ニューヨーク州から他のどの航空会社よりも多くの目的地に向けてフライトを運航しています。ピーク日に国際線のハブ空港 JFK と国内線のハブ空港ラ・ガーディアから、合わせて460便を5大陸110都市に向けて運航しています。JFK空港の拡張プロジェクトでは、2013年5月に拡張・リニューアルオープンした第1フェーズに加え、2015年1月に第2フェーズを完了しました。ラ・ガーディア空港では、1億6,000万ドル以上を投資してターミナルCとターミナルDの改修・拡張プロジェクトを推進しています。機内プロダクトの改善も進めており、全ての国際線ワイドボディ機材のビジネスクラスに、全席通路に面した完全に水平になるフルフラットベッドシートを完備しており、1日8便運航のJFKとロサンゼルス空港を結ぶ大陸横断路線にも同シートを導入済みで、2015年夏までにJFKとサンフランシスコを結ぶ路線にも導入する予定です。また、デルタ独自のシャトルサービスは、ニューヨークとボストン、シカゴ(オヘア空港)、ワシントンD.C.間を1時間に1本運航しており、2013年にはニューヨークのメトロポリタンエリアにある3つの空港(JFK、ラ・ガーディア、ニューアーク)からの国際線および米国内線の利用者は、計2,360万人にのぼりました。これは、2012年の2,210万人から更に増加しています。デルタ航空とニューヨーク地域で働く1万人近いデルタの従業員は、地域社会の一員として地元根ざしており、大リーグのニューヨーク・ヤンキース、ニューヨーク・メッツ、バスケットボールのニックス、アイスホッケーのレンジャーズ、複合イベント施設のマディソン・スクエア・ガーデン、ニューヨークの食料問題を扱うフード・バンク・フォー・ニューヨーク(Food Bank For New York City)、ニューヨーク・ワイン&フード、米国エイズ研究財団などのオフィシャルエアラインを務めています。

デルタ航空について

デルタ航空は年間約1億7,000万人以上の搭乗者数と広範なネットワークを持つ航空会社です。米ビジネストラベルニュース誌調査で初の4年連続トップに選ばれたほか、米航空業界誌エア・トランスポート・ワールド(ATW)誌により、2014年の「エアライン・オブ・ザ・イヤー(2014 Airline of the Year)」に選出、フォーチュン誌の「2014年世界で最も賞賛される企業リスト」の航空業界部門(2014 World's Most Admired Companies Airline Industry List)において、4年間で3度目の1位を獲得し、「世界で最も賞賛される企業」トップ50社にも選ばれました。デルタ航空およびデルタ・コネクションは、世界59カ国、327都市に向けてフライトを運航しています。米国ジョージア州アトランタに本社を置き、世界で8万人近い従業員を擁し、700機以上の主要機材を運航しています。航空連合(アライアンス)「スカイチーム」の創立メンバーであり、大西洋路線においてはエールフランス-KLM、アリタリア-イタリア航空、およびヴァージン アトランティック航空と共同事業を展開しています。アトランタ、ボストン、デトロイト、ロサンゼルス、ミネアポリス/セントポール、ニューヨーク(ラ・ガーディアおよびJFK)、ソルトレイクシティ、シアトル、アムステルダム、パリ(シャルルドゴール)、東京(成田)をハブ空港および主要マーケットと位置づけ、提携航空会社と合わせて一日に1万5,000便以上のフライトを運航しています。機内および空港での顧客エクスペリエンスの向上を目指し、空港施設や機内プロダクトの改善、サービス向上とテクノロジー導入に数十億ドルを投資しています。詳しくはホームページ delta.com をご覧ください。

<報道関係者お問い合わせ先>

デルタ航空太平洋地区広報部 岡田 / 松元

e-mail: corpcommjapan@delta.com

日本語ニュースルーム <http://delta.jp.mediaroom.com/>